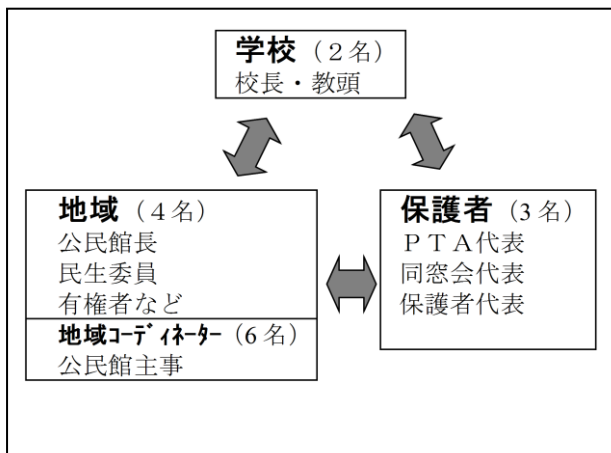


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

※開催回数 年3回開催

※開催日程

第1回 6月27日

第2回 11月28日

第3回 2月18日

※協議内容

①教育活動の参観

②家庭、地域、学校の連携について

③中学校区教育について

④教育活動に関する学校評価について

(3) 協議会における成果と課題

家庭・地域・学校協議会の方々から、地域の中での本校生徒の活動やその様子、地域の方々の声を伝えていただき、学校外での足羽一中生の姿を的確に知ることができた。また、学校に対する率直な意見をいただき、その後の教育活動や生徒への指導に役立てることができた。しかし、さまざまなボランティア活動に取り組んでいるのはよいが、生徒や教員の負担が懸念されるため、今後学校と地域との関わりをより充実させるために協議を進める必要がある。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

足羽第一中学校区内の地域の行事にスタッフとして参加し、自分たちで行事を企画・運営していくことで、地域の中での自分のあり方や地域活性化について考える。また、ふるさとの良さを再認識し、自分たちの地域に対する誇りと愛着を深める。

(2) 活動の実際

①地域ボランティア活動（5月～12月）

5月から12月にかけて、各地区の地域行事に企画・運営のスタッフの一人として参画して行事を作り上げていくことを推進し、今年度は、25事業に延べ660名の生徒が参加した。地区の伝統ある行事に企画段階から参加することで、地域の人とのつながりが強くなるとともに、自分の住む地域をより深く知る機会となり、地域の一員としての愛着と誇りをもつことができた。また、活動する中で、行事に参加している人たちから頼りにされたり、感謝されたりすることによって生徒たちは達成感を感じ、次回も参加したいと意欲をもっていた。



(様式3)

②母校訪問校下一周駅伝大会 (10/24)

今年度で54回目となる伝統行事である。大会の開催にあたり、生徒たちの安全確保のために、地区の警察、防犯隊、交通安全協会、公民館、自治会、同窓会、PTA等の協力のもと実施された。校下一周31.2km全20区間を沿道の地域の方々の声援と校区内の小学校6校それぞれでの小学生や恩師の声を受けながら足羽一中校区を駆け抜けた。各小学校はタスキの中継地点にあたり、走り終えた中学生は、児童たちと和やかな交流会を行った。また、生徒たちは、選手だけでなく、伴走や審判など、一人一役で大会を支えた。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

公民館主事として、地区行事やボランティア事業に関して、足羽一中と地域とのパイプ役をしていただいている。また、各地区の行事において中学生が地域の魅力を知るとともに地域の一員としての自覚をもって行事に参加できるように、ファシリテーターとして関わっていただいている。

(4) 特に工夫した事項

- ・地域の行事に中学生が如何にどこまで関わるのか悩ましいところであるが、地域の方々とともに中学生が地区行事の企画・運営スタッフの一員として関わる事ができるよう各地区公民館の地域コーディネーターの主事の方にご配慮いただいた。
- ・中学生の地域ボランティア活動や様々な学校行事での活動の様子などを、「一中だより(学校だより)」(月1回発刊)やホームページの「足羽一中 学校日誌」(週3回程度更新)等で積極的に発信した。「一中だより」はカラー印刷し、校区内の6公民館から各地区に配布(回覧板にて)している。

(5) 成果と課題

本校は、今年度のスクールプランに「信頼される学校づくり」の一環として、「学校と家庭、地域連携の強化」、「地域に開かれた学校づくり」を掲げており、公民館や諸機関と連携して生徒のボランティア参加を推進してきた。その結果、今年度は25事業に延べ660名の生徒が参加し、地域から感謝されるとともに、生徒は地域の一員としての自覚を持つようになった。しかし、参加した事業は昨年度より増えたが、参加人数は減少した。また、ボランティア活動の対象となる地区行事がほとんど週休日であるため、教員の負担感も小さくはない。

今後、よりよい取組としていくために、公民館や地域関係者との連携体制を改善していく必要がある。